包括的な学校改善の視点：教育課程・学習指導

ＩＣＴ活用により授業改善と業務改善を組織的に推進する学校モデル

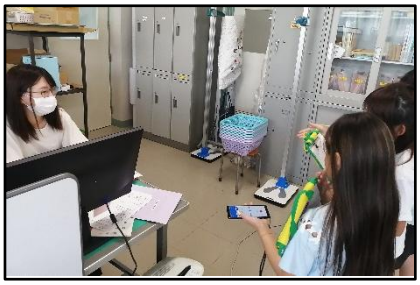
中核校	浜頓別町立浜頓別小学校	指定校	浜頓別町立浜頓別中学校 猿払村立浅茅野小学校

■　構築した学校モデルの具体

○　１人１台端末＋α及び掲示板アプリを活用した授業改善

・理科専科教員により、児童が１人１台端末を主体的に活用した授業を実践し、校内研修によって教職員間で共有する。

・野外活動やインタビュー活動において、よりアクティブに情報収集するために児童用スマホをインプット用端末として活用しクラウド上で共有するとともに、クロームブックで編集し、掲示板アプリ「Padlet」により、協働的な学びの充実を図る。



【スマホで録音・インタビュー活動】

○　家庭・地域との連携による業務改善の推進

・グランドデザインにより育てたい子ども像を家庭・地域と共有しながら、浜頓別の児童が意欲的に安心して学べる環境の実現を図る。

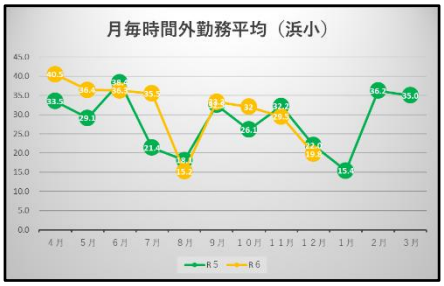
・地域学校協働活動、地域コーディネーターにより、地域の教育力を授業に活用し、児童の学びが深まり、教員の負担軽減を図る教育活動を推進する。

【コーディネートされた地域の畑の先生】

○　教職員のアイディアを生かす業務改善の継続

・加配事務職員による働き方改革コアチームの推進及び校務支援ソフト C4th の活用による時間外勤務状況の把握と勤務状況の見える化を図り、働き方改革への意識を高める。

・Google フォームによる意見集約の簡略化やスプレッドシートの活用による周知事項の徹底、「マイ定時退勤日」の共通理解を促進し、業務改善の継続を図る。



【見える化した勤務状況】

■　学校モデルの構築に向けた取組の具体

〔管理職の取組〕

・グランドデザインの作成について、教職員との意見交流や学校評価、学校運営協議会での熟議等を踏まえ、児童の実態や地域・教職員の願いを反映し、各分掌グループの計画・運営に生かせる内容にした。

・ＩＣＴ利活用に対する機運を高め、町教委をはじめとする関係機関との連携を図るとともに、研修を効果的に実践するタイムマネジメントを推進した。

〔専科教員、事務職員の取組〕

・理科専科教員は、１人１台端末を効果的に活用した授業づくりの推進役を担い、ＩＣＴ活用研修を牽引した。

・加配事務職員については、町教育委員会との連携を軸に、指定校事務職員との連絡・調整を推進し、各校の業務の効率化を図った。

■　各指定校への学校モデルの普及方策

・地域協議会において、効果的と考えた取組事例を報告、その後、実践による検証結果を再度、地域協議会において交流し、情報の共有を図った。

・町内の校長会において、取組の概要を小学校や中学校のみならず、高等学校やこども園にも説明を行った。